

学会誌・論文誌の分離発行にあたって

編集担当常務理事	田中 幸吉
”	中田 育男
編集担当理事	榎本 肇
”	後藤 英一
”	首藤 勝

情報処理学会が昭和 35 年に創立された当時から比べて情報処理に関連する工学・技術の進歩には隔世の感がある程の発展を遂げた。それと軌を一にして本学会も飛躍的発展を遂げ、今や会員数は 1 万 1 千余名を数えるに至った。

このような情報理工学・技術の発展と本学会の発展は相携えて歩んできており、この工学・技術のより一層の普及と発展のため本学会に期待される点は極めて大であり、なかでもその機関誌である学会誌の改善充実等に対する期待が大きいものと思われる。

このような情勢に鑑み、編集委員会により各方面の多数の会員各位より貴重な御意見を頂き、それらを分析した結果が本学会誌 17 巻 8 号の巻頭言に述べられている。それによると次の 3 項目に大別される。

(i) 論文の国際化、(ii) 解説・講座の充実、(iii) 論文発表の機会の拡大と即応化。

以上のような会員各位の要望を実現するため、まず (i) に対しては既に欧文誌 JIP (Quarterly) が昭和 53 年 4 月より発行されており、(ii)、(iii) に対処するため学会誌と論文誌とに分離発行を行うことが検討されてきた。その結果として昭和 54 年 1 月より学会誌から論文を分離して (ii) の要望に応え、別個に論文誌 (Bimonthly) を発行して (iii) の要望に応えることとなった。

学会誌、論文誌、欧文誌それぞれの性格、原稿執筆規程等に関する詳細については本号に別記してあるので、それらを御覧頂き度い。

最後に、これらの計画に関連して貴重な御意見を賜った方々に感謝するとともに、さらに多くの方々の御意見を拝聴し、これらの計画の尚一層の充実に役立てたく存じています。
